

平成29年度 桂中学校教育について

【学校教育目標】

「『確かな学力』・『温かな心』・『たくましさ』を兼ね備えた生徒の育成」

【目指すべき生徒像】

1 学習の目的をもつ生徒

- ・何故勉強するのかと問われて自分の考えをはっきりと回答ができる生徒
- ・自分で進んで学ぼうとする意欲がわき出ている生徒

2 温かな心・優しい心・感謝の心をもつ生徒

- ・他者への思いやりをいつも持ち続けている生徒
- ・自分の長所・短所をつかみ、自己理解を進められる生徒

3 人として常に成長する、たくましい心身をもつ生徒

- ・自分の考えをことばで表現できる生徒
- ・困難にあたってもそれを乗り越えようと努力する生徒

【目指すべき教職員像】

1 心も身体も常に生徒と「ともに在る」教職員

できる限りの時間に生徒と一緒に空間、時間を過ごし、生徒とともに悩み苦しみ、その先にある我々のやり甲斐や喜びに転化させる気持ちを持ちたい。

そのためには朝学活、授業間休み時間、昼休み時間、放課後の出張・研修・会議等のないときは「意図的に生徒とともに過ごす」ことを目指せる教職員でありたい。

2 意欲を持ち、切磋琢磨出来る教職員

人間相互の協力ほど素晴らしいものはない。一人一人の教職員の力が結集されなければ何もなしえない。教職員一人一人が「わが桂中学校」という意識を持ち、それを一つに結び、充実した学校を創り上げていきたい。

- ・全教職員がお互いの良さを認め合うこと。
- ・教職員全員の力（チームとして）で学校づくりに取り組む。
- ・日常のコミュニケーションを大切にした職場環境づくりを推進する。

3 中学生の成長過程を理解し、共に成長していく教職員

生徒は成長段階途中の多感で難しい年齢にあることを忘れず、「あの子はこういう状態であるから、〇〇のような手だてをうちたい」と発言できる教職員集団でありたい。保護者に対しても同様で、さまざまな不安を抱え、ぎりぎりで頑張って生計を立てている保護者もいることを忘れない。教職員として、「日々、自省・自戒」をする気持ちを身につけたい。

4 生徒主体の授業づくり、わかる楽しい授業づくりに取り組む教職員

本校の学習指導の目標は、「学ぶ意欲を高め、学力向上を目指した学習指導」である。そのためにも、「学ぶことの喜びやおもしろさ・楽しさが感じられる授業」を目指していきたい。「主体的・対話的で深い学び」の具体的な授業づくりを基盤に、これから新しい教育の目指す方向を探っていくことが重要である。また、学習意欲の向上を図り、家庭学習の定着を目指していく。

- ・授業改善の意識を高く持つ。
- ・自ら課題を見つけ、自ら解決する授業づくりをめざす。
- ・自学自習を意識した家庭学習と授業とのつながりの創意工夫を行う。

5 ことばにはならない相手の心情や願いや背景を理解しながら、自らの考えを的確に伝えるコミュニケーション能力を備えている教職員

生徒への指導や保護者との面談において、まず「聴くプロ」でありたい。その上で指導にあたる。相手の背景にはそれなりの理由が存在している。そのことを理解した上で、心に寄り添える教職員でありたい。

【生徒・教職員ともの行動目標】

1 お互いにあいさつをしよう

自らの身体や心の状態がどのようにであろうとも、相手を尊重できるあいさつを心がけよう。

2 感謝の気持ちを持ち続けよう

今の自分があるのは家族をはじめ・友人・教職員・地域のみなさんが見えないところで支え励ましてくれているからであることを、しっかり自覚して、感謝の気持ちをもって学校生活を送ろう。

3 必ず時間を守れるよう心がけよう

周囲から信頼される基本中の基本。常に時間を意識しながら生活していく態度を身につける。

4 他者に寄り添う（ボランティアスピリット）ことを意識しよう

困っている人がいたら、自分から援助ができるようになろう。他者の存在を認めて温かい気持ちをもてるよう自分を鍛えよう。

【重点目標】

1 『「道徳の時間」を中心とした道徳教育』の実践

全ての教育活動を通じて道徳教育の充実を図る。特に「道徳の時間」については、35時間の道徳授業を計画的に行う。人間としてのよりよい生き方を探求する力を身につけさせる。道徳の授業は、「考える道徳・話し合う道徳」を継続していく。また、教科化に向けて評価の研究を進める。

2 学校図書館教育のさらなる充実

読書センターとしての活用と充実

情報メディアセンターとしての活用と充実

授業における学習活動の場としての活用と充実

放課後学習会などの自主学習の場としての活用

桂中ブロック校区 3 小学校図書館教育との連携



それらの活動の中から「高い言語能力」を備えた生徒を育てる。

3 生徒会活動を中心とした特別活動の充実

現在、様々な行事や諸活動において、活動の企画・取組の計画・練習や行事の運営を生徒の手で行なってきている。今年度、さらなる生徒の自治活動の浸透を図る。

今年度のキーワードを「委員会活動の充実」・「学級における自治活動の浸透と拡大」と「東北プロジェクト」とする。そのため特別活動の学校行事・生徒会活動・学級経営などの教育課程の中で、自ら考え行動する姿勢を養っていく。

4 生徒のさまざまな困りに対する理解と確かな支援

学習におけるつまずき、友人関係、部活動や家庭のことなど、日々の生徒への観察や情報収集を通して、生徒の変調に気付き、適切な対応を心掛ける。また経済的格差を学力格差につなげることのなきよう、学力の向上と生活行動面など教職員が意識をもって指導にあたり、取り組む。

5 凡事徹底

毎日のルーティンワークを大切にし、当たり前のことを繰り返し徹底して行動していく。凡事にこそ教育の基本が詰まっている。

【教育課程編成における共通理解】

1 年間授業時数50分・1015時間の確保、言語活動を取り入れた授業展開

昨年度も各教科・領域の最低授業時数と総合計1015時間は維持することができた。多くが週29時間を実施しての結果である。今年度も行事予定から昨年度並みの厳しい授業時間数配当が必要であるので、その点を共通理解していきたい。各教員は本気で「言語活動・ICT活用・課題解決型学習」に取り組む。そのためのOJT、総教Cや研究会研修に自主的に参加する。

2 「考える道徳」「話し合う道徳」の方向性をもった道徳の授業の推進

学活などへの振替はしない。今年度も道徳を軸に特別活動・学活との融合を図る。時間割としては、水曜日4限に設定する。

3 朝読書・終学活の10分間の確保

今年度も引き続き図書館活用に重点を置くため、その一環として読書活動を推進していきたい。8時35分に音楽が流れる中で静かに朝読書を開始する。

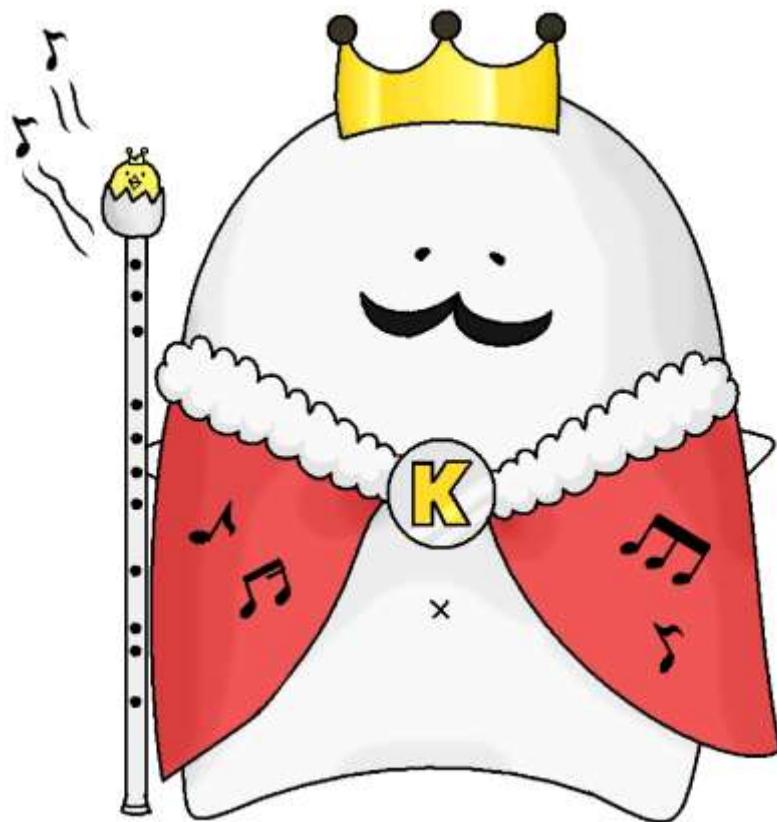
4 職員朝礼は8時25分、生徒始業は8時35分。授業・会議等教職員も時間を守る。

8時32分までには教員は全員職員室を出て、8時35分には教室・廊下・校門付近で始業を迎える。遅刻点検も確実に行い、必要に応じて家庭連絡を行う。教職員の教室へのベル入り、各種会議や研修会等も時間厳守を励行する。

**我が子を通わせたい学校・我が子を受け持つて欲しい先生
をめざしていきましょう！**

平成24年度制定学校スローガン

「輝く未来は無限大～響け！！桂中和音～」



平成25年度制定 学校キャラクター「桂王子」